

恵那南高校 魅力化プロジェクト

～6次産業学習・9年間の取り組み～

目的

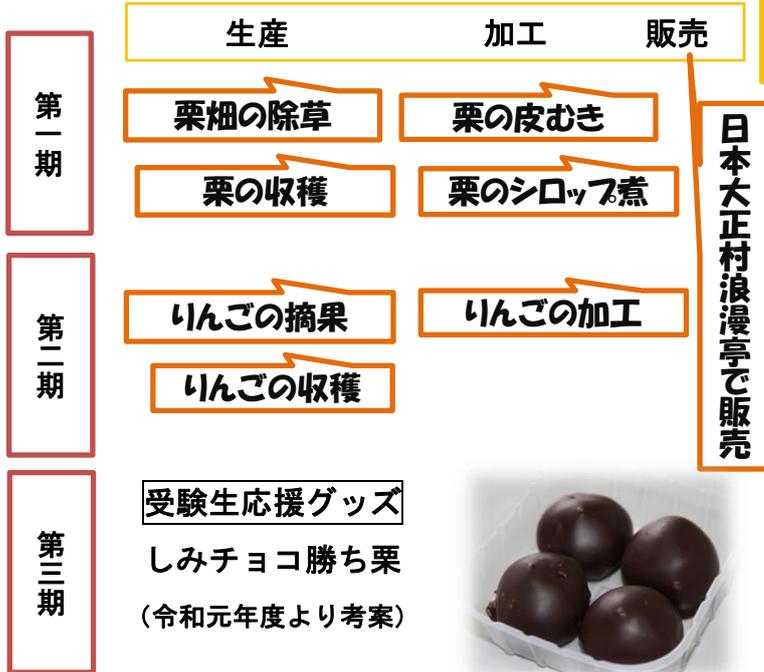
「地域連携による活力ある高校づくり推進事業」の一環として、恵那市や恵那川上屋との連携により、恵那栗の生産・加工・販売に取り組む6次産業学習を実施。社会人・職業人としての人材力アップと恵那市を中心とした地域経済への貢献を目指す。

活動

- 恵那市・恵那川上屋・恵那南高校との間で、3者連携協力協定を締結（H28.5.6）
- 地域と連携した学習による、恵那栗の生産・加工・販売

H30 農林水産省主催「地産地消等優良活動表彰」

農林水産省食料産業局長賞受賞



ロゴマーク作成



ENAMINAMI H.S.
&
ENAKAWAKAMIYA



令和6年



令和元年



令和2年



令和3年



令和4年



令和5年

<生徒の感想>

- ✓ 6次産業学習を通して恵那市や明智町のことを深く知ることができました。
- ✓ しみチョコ勝ち栗のパッケージデザインを手がけ、いい体験ができました。
- ✓ 1つの商品を作るために、いろいろな人が関わり、協力していることがわかり、そのありがたさを感じました。

恵那南高校
「ビジネスと観光系列」が制作

令和6年度 6次産業学習商品



「しみチョコ勝ち栗」パッケージリニューアル！

令和元年度から恵那南高校の「6次産業学習」における取組として、受験生を応援するための商品開発を手掛け、「しみチョコ勝ち栗」を考案して、恵那川上屋さんに製造していただいております。勝ち栗とは本来『搗栗』と書き、栗を殻付きのまま干して臼で搗（か）ち、殻と渋皮を取り除いたものことです。保存性に優れて栄養価も高いことから戦国時代には兵糧^{ひょうりょう}として重宝され、また、『搗ち』が『勝ち』に通じることから出陣の際に用いられるようになりました（武田信玄の川中島の合戦の話にも登場します）。現在では搗栗を食べる機会はほとんどなくなり、栗そのものを『勝ち栗』として用いることが多くなりました。

そこで、受験生を応援しようと恵那栗を縁起物の「勝ち栗」にして、努力がしみ込んだに掛けて、チョコレートでコーティングし（しみ込ませ）、受験を無事に突破してもらおうという想いを込めました。受験グッズとしてパッケージデザインにもこだわり、神社のおみくじ型にしました。

受験生やその保護者。また、何かを乗り越えようとしている人、何か心配事がある人、応援グッズがほしい人、誰かに応援の気持ちを送ろうとしている人に購入してもらいたいです。

幸せをつかむようと、4粒入りです。



パッケージストーリー

合格祈願といえば「神社」ということで、この鳥居にしました。来年の干支の蛇は、古くから豊穡神、天候神として信仰され、神の使いとも考えられてきました。特に白蛇は、幸運の象徴とされ「幸運」「金運」「成長運」を上げるほか、不老長寿や子孫繁栄、家族の平和をもたらすとされますので、受験生へ幸運をもたらすことをイメージしました。

また、その白蛇が「あなたの将来を占おう」と語りかけ、受験生への興味を引きます。そして、パッケージの裏側には応援メッセージを書き入れることができ、応援したい人に向けてエールを送ることができます。内側には、おみくじを追加することによって、今までにない新しさを出すことに成功しました。